

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：83603

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26770238

研究課題名(和文)近世の小規模領有関係錯綜地域における領主ネットワークと地域社会に関する研究

研究課題名(英文)The study on network between early modern lords and the local community in the region where the territorial relationship is complicated

研究代表者

千葉 拓真(Chiba, Takuma)

飯田市歴史研究所・研究部・研究員

研究者番号：60719483

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：南信州(主に飯田・下伊那)地域における領主たちの動向について、飯田藩や交代寄合信濃衆に関する基礎的事実の解明・分析を中心に明らかにした。そうして得られた事実により、飯田藩をはじめとした領主権力の在り方と地域社会の構造や動向、中央政局の展開などとの関連についても明らかにすることが出来、京都をはじめとした領外の都市との関係についても論じることが出来た。そうした成果によって、この南信州(特に飯田・下伊那)という地域が、領有関係の錯綜や中央の政治状況等によって、領主権力とともにそのあり方を大きく規定されていることが明らかとなり、畿内や駿遠地域等との比較検討も行うことが出来た。

研究成果の概要(英文)：Regarding the trends of lords in Minami Shinshu (mainly Iida, Shima-ina) area, I clarified the elucidation and analysis of the basic facts about the Iida clan and the replacement gathered shinnon. Based on the facts obtained in this way, we can also clarify the relationship between the way of lordship, including the Iida clan, the structure and trend of the local society, the development of the central political department, etc., and the territory including Kyoto I could discuss the relationship with outside cities. As a result of such a result, it became clear that the region called Minami Shinshu (especially Iida & Shima-ina) is largely regulated along with the main authority due to conflicting domination relations and central political situation etc.

研究分野：日本近世史

キーワード：南信州 飯田藩 信濃衆 非領国 地域 領主

1. 研究開始当初の背景

私は、これまで日本近世における朝廷、幕府、藩の三者関係(朝幕藩関係)から、近世国家の全体像を捉え直そうと試みてきた。特に加賀藩を主たる事例として、大名家と天皇・朝廷との関係を、藩政の動向や幕藩関係による規定性を念頭におきながら、交際や儀礼などの面から検討し、天皇・朝廷との関係が、加賀藩前田家の家政運営や領内支配などと、どのような相互関係にあるかについて論じた(拙稿「加賀藩前田家における公家との交際」(『論集きんせい』32・同「近世大名家における書札礼書と公武の序列」(『史学雑誌』121-8)など)。しかし、研究を継続する内、大名の家や藩の構造、及び幕府や朝廷など外部との関係だけでなく、当該の大名について、それが領有する地域の特質からどのように拘束されるのかという点に留意しつつ、これを近世国家の支配構造に位置づけるという点 領主と地域社会という視点が重要な課題であると自覚された。

領主と地域社会という視点から研究を進めるにあたり、その前提となる研究動向には、第一に「藩社会」研究がある。これは「藩」という枠組みの下にある地域社会の特質を検討しようとするもので、一つは、地域社会の構造、諸社会集団のあり方や諸関係、江戸や上方、飛び地などとの関係などについて、これらを総合的に検討するものと(岡山藩研究会編『藩世界の意識と関係』2000、岸野俊彦編『尾張藩社会の総合研究』2001～など)、今一つに「領政機構」のようにテーマを限定して取り上げようとするものがある(渡辺尚志編『藩地域の構造と変容』2005、渡辺尚志・荒武健一郎編『近世後期大名家の領政機構』2011など)。これらの「藩」研究では幕府と藩の関係に偏りがちであった従来の研究に対する批判や、それまで自治体史では取り上げられなかったテーマにも光りを当てることなどが意識されている。

第二に「非領国」研究である。これは領有関係が錯綜する地域を1つのまとまりとして捉えようとする研究であり、前述のように畿内や関東などを対象にいくつかの成果が見られる(関東近世史研究会編『近世の地域編成と国家』1997、藪田貴『近世大坂地域の史的研究』2005、青木美智男『近世非領国地域の民衆運動と郡中議定』2004など)。これらの「藩社会」研究や「非領国」研究では、それぞれにおける藩や幕領・旗本支配の特質を明らかにするだけでなく、対象とする地域社会の歴史的特性とその全体像を描こうとする点に学ぶべき重要な成果がある。

一方で、「藩社会」研究は、規模の大きな藩が主な検討対象となり、「非領国」地域に存在する規模の小さな藩(小規模藩)についてはほとんど研究が進んでいない状況であった。「非領国」研究についても、従来から関心の高かった畿内や関東以外はほとんど

対象になっておらず、領主と地域社会との関係という視点からのアプローチも十分になされていないと言え難いものであった。

こうした研究状況を踏まえ、領主と地域社会の関係と領主のネットワークという視点から、「非領国」に存在する小規模藩と地域社会の構造的性質について、議論を深めていく必要があると考えられた。

この課題を検討するに当たって、史料が比較的多く存在し、近隣の領主との関係を検討することのできる南信州、特に飯田藩とその周辺地域をフィールドとして、領主間のネットワーク、そして領主と地域社会との関係を再検討することが重要であると考えた。

この一帯は領有関係が錯綜する「非領国」地域であるが、人的・物的な交流等によってひとつの地域的なまとまりを形成していたことが想定される。しかしこれまで個々の領主に関する研究は乏しく、また飯田藩をはじめとする小規模藩やその近隣の知行主、幕領代官など、領主間の地縁的ネットワークやその特徴についても明らかにされていなかった。以上の点から、南信州は本研究の事例として好適であると考えられた。

2. 研究の目的

上述の課題を踏まえ、(1)研究の進んでいない飯田藩および藩主堀家の構造を具体的な事例に即して解明すること、(2)飯田藩を中核とした南信州における領主の地縁的ネットワークの実態、そしてその下で展開する個別領主の支配を超えた地域的なまとまりの実態を基礎的事実の確定から明らかにすること、(3)領主と地域社会の相互規定性を念頭に、南信州における領主と地域社会の関係を明らかにすること、(4)(1)～(3)の成果と、これまで検討されてきた大規模藩や畿内などの「非領国」地域との比較によって、全国規模での南信州の位置づけを提示すること、以上を研究の目的とした。

3. 研究の方法

まず飯田藩をはじめとした南信州の諸領主(具体的には小笠原氏、座光寺氏、知久氏の交代寄合など)に関する史料を悉皆的に調査することからスタートした。中でも飯田藩の構造、および同藩と近隣諸領主・知行主との関わりを示す史料から分析を開始し、ある程度具体相が明らかとなった段階で、小笠原などの交代寄合(信濃衆)に関する研究を、飯田藩と同様の方法で行った。

またこれらと平行して比較対象とする諸藩や地域を選定し、それに関する史料の所在状況の確認、研究の後半には交代寄合美濃衆(高木西家・高木東家)について検討を加えたほか、ワークショップを平成27年度と平成28年度の計2回開催し、熊本藩や駿遠地域、および畿内などとの比較検討を行い、飯

田藩を中心とした南信州における諸領主のネットワークとその地域的な特性を検討した。また平成 28 年度には、飯田市主催の飯田市地域史研究集会において、「飯田藩と地域社会」を企画し、その中で飯田藩政の展開と地域社会との関わりについて議論した。

加えて研究の進展もあり、飯田藩主堀氏による京都での活動に関する史料や堀氏以前の飯田藩主（具体的には脇坂氏）に関する史料の調査を実施したほか、加賀藩等に関する史料をサンプル的に調査した。

具体的な史料調査については下記の通り。

(1) 平成 26 年度

飯田藩関係文書の調査

- ・飯田藩土 熊谷家文書(飯田市美術博物館)
- ・飯田藩土 柳田家文書(飯田市美術博物館)
- ・堀氏史料(下伊那教育会)
- ・飯田御用覚書(飯田市歴史研究所所蔵写真帳)の悉皆調査
- ・堀親義書留(東北大学附属図書館)

など

交代寄合信濃衆関係史料の調査

- ・小笠原家文書(小笠原資料館)
- ・お下屋敷文書(小笠原資料館)
- ・片桐家文書(高森町歴史民俗資料館)

飯田藩主堀氏と縁戚関係にある公家(竹内家)に関する史料調査

- ・竹内家日記(東京大学史料編纂所)
- ・竹内家記録(東京大学史料編纂所)

その他

- ・高遠藩関係史料(東北大学附属図書館)

(2) 平成 27 年度

～ の継続

交代寄合高木家に関する史料調査

- ・高木家文書(名古屋大学附属図書館)
- ・美濃高木家文書(名古屋市蓬左文庫)

(3) 平成 28 年度

～ の補遺調査

後藤家記録の調査(東京大学史料編纂所)
飯田城下町出身で金座後藤家の養子となり、天保の改革などにも関わった後藤三右衛門光亨の取調記録。

比較検討対象とした藩に関する史料調査

- ・柳沢家文書(柳沢文庫)
- ・加越能文庫(金沢市立玉川図書館近世史料館)
- ・前田土佐守家文書(前田土佐守家資料館)

飯田藩主堀氏と京都との関係に関する史料調査

- ・京都府庁文書(京都府立総合資料館)

飯田藩主脇坂氏に関する史料調査
・龍野文庫(たつの市立龍野歴史文化資料館)

4. 研究成果

(1) 飯田藩主堀氏に関する分析

まず飯田藩政に関する基礎的な事実の確定を進めた。18 世紀中期から後半の飯田藩政については、飯田市の長久寺内にある飯田城主堀家墓所や藩士家の史料等を中心に分析を加え、当該期における藩政の特質や堀家の動向について明らかにした。その成果を『飯田市歴史研究所年報』14 号に研究論文として掲載した(雑誌論文 3)。また 19 世紀前半の飯田藩政については、10 代藩主堀親憲・11 代藩主堀親義父子の動向等を中心に分析を加え、当該期の藩政の動向や堀親憲父子の幕府役職就任などについて、基礎的な事実とその特質を明らかにした。またこの時期の堀父子の交際関係(「両敬」)についても、幕府役職への就任と絡めて分析を加えた。前者については平成 28 年 8 月に開催された飯田市地域史研究集会において研究報告を行い(学会報告 7)、平成 29 年刊行予定の『飯田市歴史研究所年報』15 号に論文として掲載される(研究論文 5)。後者については、2 回学会報告を行った(学会報告 2・3)。これらの成果により、18 世紀から 19 世紀前半にかけての飯田藩政と地域社会、および領主間もネットワークについて明らかにすることができた。

(2) 飯田藩周辺の領主に関する分析

飯田・下伊那に拠点を置いた交代寄合信濃衆(知久氏・小笠原氏・座光寺氏)を主な事例として検討を加えた。特に史料が比較的豊富に残存している小笠原氏に関する分析を中心に行い、18 世紀後半における交代寄合信濃衆の動向と地域社会および幕政との関連について検討を行ったほか、17 世紀後半を中心に飯田藩などとの関係についても検討を加えた。前者については 1 回の学会報告を行い(学会報告 4)、その成果を研究論文として発表する予定である(雑誌論文 4)。後者については、ワークショップ「飯田・下伊那の領主たちと地域社会」(平成 27 年度)において研究報告を行い(学会報告 5)、その成果を『飯田市歴史研究所年報』14 号に研究論文として掲載した(雑誌論文 2)。なおこれについては、(3) 南信州と各地域との比較検討の項目とも深く関係する。これらの成果により、17 世紀後半から 18 世紀にかけての、飯田・下伊那における地域秩序や領主たちの動向およびそのネットワークについて明らかにすることができた。

(3) 南信州と各地域との比較検討

平成 27 年度に静岡大学の今村直樹氏を、平成 28 年度に京都精華大学の齊藤紘子氏を

招請してワークショップ「飯田・下伊那の領主たちと地域社会」・「飯田・下伊那の領主たちと地域社会」を開催し(学会発表5・9)それぞれ熊本藩および駿遠地域、そして畿内と飯田・下伊那との比較検討を行った。平成27年度のワークショップでの報告内容については、『飯田市歴史研究所年報』14号に研究論文として発表した(雑誌論文2)。

(4) 飯田藩主堀氏と京都との関係に関する分析

飯田藩主堀氏に関する分析を行うにあたり、同氏が領地外と持つ関係について検討を加えるため、飯田藩が都市京都と取り結んでいた関係について、17世紀後半を中心に分析を加えた。これについては、17世紀後半を主に検討した研究論文を公表し(雑誌論文1)それをもとに加賀藩等との比較検討も視野に入れた研究報告を1回行った(学会発表6)。これにより、飯田藩が京都の町人や公家らと関係を有し、様々な活動を京都において展開していたことが明らかとなり、主に17世紀後半の飯田藩の動向を知る上で重要な事実が明らかとなった。

(5) 総括と展望・課題

総じて、17世紀後半から19世紀前半における飯田・下伊那の領主たちの動向、および彼らが形成したネットワークや地域社会等との関わりについて、多くの事実を明らかにすることが出来、他地域との比較検討を行うことが出来たという点で重要な成果を挙げることが出来たと考えている。

しかしながら、18世紀前半の飯田藩政や飯田・下伊那地域の動向については未だ分析の空白として残った。また交代寄合高木家(美濃衆)については、信濃衆との比較検討を念頭に史料収集を進めたが、研究報告等の形で成果を公表するまでに至らなかった。美濃衆が信濃衆とは異なる政務運営の形態をとっていたことや、公家等との関係を多く有していたこと等、信濃衆には見られない特徴を有していることは明らかとなったが、今後さらに検討を加えなければならず、課題として残った。こうした点に留意しながら、今後研究をさらに深化させていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

- (1) 千葉拓真「一七世紀後半における飯田藩と京都 「飯田御用覚書」から」
『飯田市歴史研究所年報』12号 2014年8月、査読有
- (2) 千葉拓真「一七世紀後半における飯田藩と信濃衆 「飯田御用覚書」の分析から」
『飯田市歴史研究所年報』14号 2016年

11月、141～158頁、査読無

- (3) 千葉拓真「近世における堀家墓所の成立と飯田藩政」
『飯田市歴史研究所年報』14号 2016年11月、159～173頁、査読有
- (4) 千葉拓真「一八世紀後半の交代寄合信濃衆 伊豆木小笠原氏の動向を中心に」
『論集きんせい』39号 2017年刊行予定(印刷中)、査読有
- (5) 千葉拓真「近世後期の飯田藩政 その展開と課題」
『飯田市歴史研究所年報』15号 2017年刊行予定(印刷中)、査読無

〔学会発表〕(計9件)

- (1) 千葉拓真「寛政期における譜代大名の「改革」志向 土浦藩主土屋泰直を事例に」

第53回近世史サマーセミナー、2014年7月19日、丸徳旅館(茨城県ひたちなか市)

- (2) 千葉拓真「幕府役職への就任における職務情報の授受と「両敬」」

日本古文書学会大会、2014年9月28日、皇學館大學

- (3) 千葉拓真「近世大名家における交際とその特質 信州飯田藩主堀家を事例に」
東京大学 近世史研究会例会、2015年1月9日、角川本郷ビル(東京都文京区)

- (4) 千葉拓真「宝暦-天明期から寛政期における交代寄合信濃衆」

名古屋大学 近世史研究会例会、2015年7月12日、名古屋大学文学部

- (5) 千葉拓真「17世紀後半における飯田藩と信濃衆」

飯田市歴史研究所ワークショップ「飯田・下伊那の領主たちと地域社会」、2015年12月12日、上郷公民館(長野県飯田市)

- (6) 千葉拓真「近世大名家の京都における活動と京都屋敷」

第32回平安京・京都研究集会(招待講演)、2016年7月31日、機関紙会館(京都府京都市)

- (7) 千葉拓真「近世後期における飯田藩政 その展開と課題」

第14回飯田市地域史研究集会、2016年8月26日、飯田市公民館(長野県飯田市)

- (8) 千葉拓真「近世武家社会における「両敬」」

日本史研究会 2017年1月例会(招待講演)、2017年1月28日、機関紙会館(京都府京都市)

- (9) 千葉拓真「生類憐みの令をめぐる飯田藩と村々」

飯田市歴史研究所ワークショップ「飯田・下伊那の領主たちと地域社会」、2017年3月11日、上郷公民館(長野県飯田市)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

千葉 拓真 (CHIBA Takuma)
飯田市歴史研究所 研究部 研究員
研究者番号：60719483

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

なし